

パスしてみたフラッグフットボール(3年生)

中村俊介（枚方市小学校）

1. はじめに

前回の研究部例会でフラッグフットボールを実践してたくさん先生方にお話しをいただき、もう一回チャレンジをしてみたいと思いから、今回もやらせていただくことになりました。

5年生で1対1から始めていき、ラン中心にしていたところ子どもたちから「パスをしたい。」という要求がたびたび出てきていた。それに無視？するかのように自分がやってみよう実践？に突き進み、結局ハンドオフまではするが、なんとなくもやもやしてしまう形で実践が終わってしまった。フラフットの知識も薄かったこともあり「ガード」がガードの役目をわからずに進んでしまったことがうまくいかないことのひとつなのだろうと考えています。（いくつかあるのだけど。）今回はあえてガードを深めることより、子どもからの要求があった「パス」を中心に取り組むことを考えました。

2. 子どもたち

1学期から、体育は班を作り、グループ学習っぽいことをしてきました。1学期はリレーとマット、水泳ではペア学習、2学期は、跳び箱、とグループは必ず作って（一応）取り組んだ。生活班でも、班長を中心に話し合いをさせたり、班遊びをさせたり、班で取り組めることをなるべく多くした。また、作文を読みあい、子どもたちの生活に触れ、お互いのことを知ることをさせていきました。1学期に比べ、ケンカも少なくなり、なんと

くお互いのことを知れているのではないかと考える。雰囲気としてそう感じる。

○気になる子

支援学級に在籍しているA、運動が苦手なようで、マットは逆さになることが怖く、前転しかできずに終わってしまった。うまく自分の気持ちや言いたいことを言えなくて困ってしまうことが多かった。

ボール運動のため体育が苦手だけど、まだちょっとできるかなと思ってもらえたらいいなと思うのと、分からないことが多いと思うからこそ周りの仲間が支えてあげられるようになってもらえたらいいと思った。だからこそ、作戦はなるべく簡単なものにしたいなと思った。

3. フラフトで学ばせたいこと

- ① 作戦を使って相手をだまして、タッチダウンができる。（単純な作戦）
- ② 全員、パスを投げられる。
- ③ ハンドオフの体の使い方（ボールを隠す）

4. 実践計画

日にち	時	学習内容	
2学期	1	インベーダーゲーム	
2学期	2	インベーダーゲーム	
	3	インベーダーゲーム	
2/15	4	オリエンテーション	フラッグフットボールについて知る
17日	5	パス（中）	パスの練習、前パスを覚える

18日	6	パス（運動場）	3対2
21日	7	パス（運動場）	3対2
25日	8	パス	ハンドオフ
26日	9	パス	3対2
28日 （終）	10	ハンドオフ パスを使っ て	3対2
	11	試合	
	12	ランとガードを教える	
	13	ランとパスを交えて試合	
	14	リーグ戦	

5. 実践の内容

班体制 1班5人（男女混合）班長を3学期で選び、残りは教師側で決めた。

ボール は小さい掌サイズの大きさ。柔らかくキャッチしやすく、当たっても痛くない。

コート は横12m 縦20mほど

初めはダウン制をとらずにシンプルに得点制をとった。（いまいち自分がうまく教えられるか不安だったため）

守りはQBから3歩分の距離から始めた（はじめは何となくでやってみたら、ちょうどパスが投げれたり、ハンドオフが行えるオフェンス有利の形になった。）

途中からダウン制をとって、ランの有効性を考えさせたかったなと思った。

1～5で番号をうち、必ずQBが回ってくるようにした。守りも順番に回るようにした。

1～2時

5対5で一人一球ボールを持ってタッチダウン

3時

5対5で班で一つボールを持って守りゾーンを突破する。（楠橋先生がしていたマッ

トを使ってタッチダウンさせた）

4時 オリエンテーション

運動場で、やりながら取り組ませたかったが、突然の雨で教室に戻ることになり、ルールとフラフトのおもしろさを伝えた。今回、子どもたちにアンケートはとっておらず、導入としてはいまいち。しかし、ラグビーとのちがいや、少しやってみた動きに興味は抱いていたようだった。動画も見せた。

5時 前パスの練習（体育館）

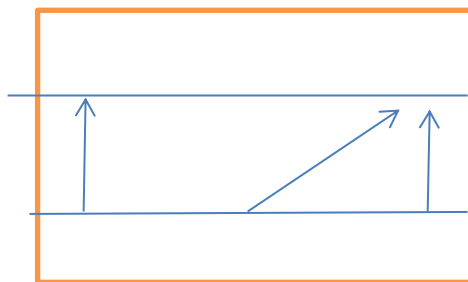
ボールに慣れるために2人、3人ペアで、向き合ってパスの交換をさせた。作戦はこちらで教えた。できるだけわかりやすいものがないと思い、両ウィングが「セットレディーゴー」で縦に走り、右か左にQBが投げる。両ウィングはコーンのところまで行ってからパスをもらう。

3対1で班でも練習させた。

<子どもの感想>「パス、ぜんぜんしてくれなかった。いっぱいパスしてほしい。」

「パスがむずかしかった。パスをもっと練習してパスを上手になりたい。」

作戦①



6時 前パスを使って試合（運動場）

前回学んだパスを使い3対2で試合形式で行った。守りは、一人は必ずQBのフラッグを取りに行く。もう一人は、作戦が二つしかないなので、右か左かで守る。守りの意味を分かっていない、（QBにサックをすること）子どももいた。

<子どもの感想>

「守りの動きが速いので、ボールを投げにくかった。」

「相手とたいせんして **QB** が私になったとき相手がタグをとろうとしたら私はにげてボールをなげたけどむりだったので最悪でした。」

7時 別の作戦を教える

一つの作戦では、今後作戦を考えるときに幅が広がらないだろうと思い、もう一つ作戦を教えた。また、前回でパスがうまくつながらないことが多く感想にあったので、どうしたらパスがつながるかを考えさせた。

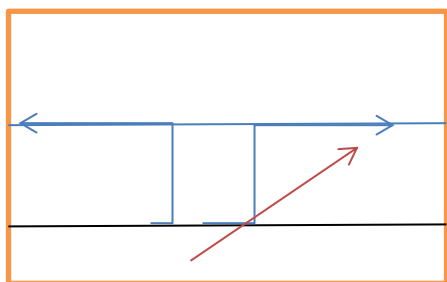
班の考え 軽く投げる。胸に投げる
キャッチしやすくなげる
方向によってきゅうしゅうする

<子どもの感想>

[**QB** の時に、前にあいてがいるときは上、いない時はしたをしたらいいと分かった。]

[よけてなげれたけど、おしくて、もうちょっとでうけたけど、うけれなかったから、次はうけれるようにしたいと思った。]

作戦②



8時 めあて：ハンドオフを知る。

この日はマラソンをしたのであまり時間を取れなかったため、ハンドオフを教えた。ハンドオフは隠すとだましやすいと伝えた。3人、**QB** を中心に両ウィングが交互にすれ違いパスをもらうやり方を教えた。

ハンドオフは個人的にやりたいと思っていたので、めあてとしてはあまりなかった。投

げるより手渡しパスが子供たちとしてもやりやすいのかと。また、ボールがすごく小さいのでとてもだましやすいいと思い取り入れた。

ハンドオフは難しいようだった。すぐにはできない子どももたくさんいて、やり方を班ごとに説明することが多かった。また、子どもたちにそのハンドオフの有効性が本当にわかっていないと思われる。

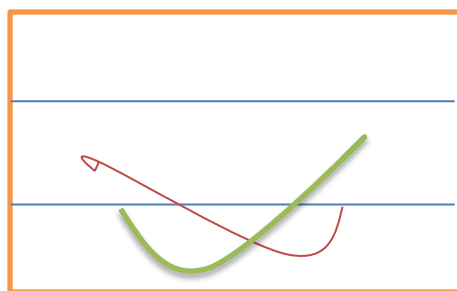
ここで、**QB** が持って走ってもよいかとでてきたので、いいよと伝えた。

子どもの感想

「ボールを仲間からもらったなら、すぐにすーと走るということが分かったからよかった。」

「むずかしかった。もっと練習したいと思った。でも楽しかった。」

「ハンドオフをしているのを見ると、だれがもっているかわからなかった。」



9時 めあて：ハンドオフをスムーズにするためにはどうしたらよいか。(体育館)

前は、時間もなくて子どもたちが理解しないまま終わってしまったので、班練習でハンドオフを習熟させ、試合形式でゲームを行った。

班の考え 手を伸ばす ばれないように行動する。しっかりかくすボールをかくす

<子どもの感想>

「今日うまくかくせなかったです。もうちょっとがんばりたいです。」

「ハンドオフ思ったよりむずかしかった。こんどはうまくやりたい。」

「うまくだませたのでうれしかったです。」

10時 作戦をつかって相手をだまそう

今まで学習したパスを使って最後のゲームをした。

作戦①

作戦②

作戦③（ハンドオフ）

<子どもの感想>

「ボールパスもうまくできてとく点もとれてよかった。」

「わたしは、さいごのフットボールで分かったことは、すばやくわたすことです。自分では、すばやくできていたなと思います。楽しかったです。」

6. 実践を振り返って

今回はパス中心にして取り組んだ。まずフラグフットボールのおもしろいところである相手をだますことが子供たちにとって分かっていたかというところではないと思える。子どもたちはパスをすること、つながることに楽しさを感じて取り組んでいたようだ。パスはなかなかつながらないことを子どもたちにわからせるためにどれだけ成功して、得点を取れたかをデータとして書き込んだ後、全然点数をとれないことに気づかせたかった。そこから、ランをして、少しでも前に進んだら得点になるんだなということを教えていきたいなと思っていた。ランの有効と、ランもパスもあるから、そのどちらかでだませる楽しさを感じてもらえたらよかったと思った。

消化不良かつ、中途半端に実践も終わってしまったし、最後のまとめの感想も書いてもらえてなかったのも、子どもたちの考えが分からない。最後の感想もとにかく最後の最後の時間でやったのでやっつけ感想になってしまった。しかし、最後の体育でやな思いをした子はいなかったようであるのでほっとした。

（3年最後でつまらない！となってもそれは

困ってしまうので）

子どもたちの振り返りを全然いかせてないので、もっと通信で載せたらよかったと反省している。読み返すとなんだかいいなと思える言葉もあった。

まだまだ自分がどうしたいのかを一本の筋として見いだせない。とにかくやってみたいと思ったことを手探りでやり続けているので、悩むことも多いし、子どもたちもそれにつられることが多い。自分の授業の仕方も考えていきたいなと思える。何を学ばせたいかを考えるのって難しいなとまた感じた。いつでも思う。